



2025年12月撮影

次の木更津へ。

木更津市長

討議資料

よしくに
渡辺芳邦

次の木更津へ。

ごあいさつ

市民の皆さまへ

今日、社会や暮らしのあり方が大きく変わる中で、木更津にも、これまで以上に先を見据えた判断と行動が求められる時代となりました。そうした問題意識のもと、前回のマニフェストで私は「次代へつなぐ」という言葉を掲げました。それは、目の前の課題への対応にとどまらず、次の時代にまで責任を持てるまちづくりを進めていくという決意でした。

この4年間は、その決意を実際の政策として確かめ、市民の皆さまと共に形にしていく時間だったと考えています。感染症への対応をはじめ、医療・健康、子育て・学び、防災、地域経済、スポーツや文化といった、暮らしの根幹を支える分野を中心に、「もしもの時にも揺らがらない土台」を一つひとつ整えてきました。

そうした歩みを重ねる中で、木更津がめざすべき姿も、次第に明確になってきました。行政だけが支えるのではなく、人と人、人と自然、暮らしと経済が支え合い、地域の中で力が循環していくまちの姿です。

「オーガニックなまちづくり」とは

木更津市は「オーガニック」を次のように定義しています

- 地域・社会・環境等に配慮し、主体的に行動しようとする考え方
- それをまちづくりの視点として、人と自然が調和した持続可能な都市を次世代に継承する取り組み

“自然と共生しながら、人と人がつながり、地域資源を循環させるまちづくり”が木更津市のめざす姿です。



その出発点にあるのが、自然や地域の力を活かし、持続可能な形でまちを育てていく**オーガニックなまちづくりの理念**です。この理念を、実際の政策や事業として動かしていくための仕組みが、分野を越えて人や資源をつなぐ**地域循環共生圏というシステム**です。

理念と仕組みを軸に施策を積み重ねてきた結果、暮らしの安心が広がり、市民と行政が共に進める共創の経験が育ってきました。あわせて今、これらを次の段階へと進めるため、人が集い、学び、挑戦し、地域の力が交わる拠点や空間、インフラといったハード整備の準備も整いつつあります。

その先にめざすのが、健康や安心、生きがいを大切にする**ウェルビーイングの向上**です。

「次代へつなぐ」という言葉のもとで整えてきた土台の上に、本マニフェスト「次の木更津へ。」では、市民の皆さまと共に、夢と希望をかたちにしていきます。

誰もが安心して暮らし、挑戦でき、誇りを持てるまちへ。「次の木更津」を、これからも市民の皆さまと共に築いていく決意を、ここにお示しします。

令和8年1月

木更津市長 渡辺 芳邦

「ウェルビーイング (Well-being)」とは

「心も体も社会的にも満たされている、良好な状態」を指す概念です。木更津市でも、ウェルビーイングを軸にしたまちづくりが今後ますます重要になります。

この4年間の歩みと実績

出来事から見える、木更津の前進

はじめに

この4年間の木更津市政は、出来事に対応する行政から、出来事を次のまちづくりにつなげる行政へと進化してきた期間でした。危機、挑戦、節目となる出来事一つひとつを、制度に、仕組みに、そして次の成長の土台へと転換してきた——その積み重ねが、現在の木更津の姿です。

2022年

(令和4年)

非常時から平時へ、そして未来へ。「元に戻すだけでなく、改善前進する行政」へ転換

主な出来事

- 市長として3期目就任
- 鳥居崎海浜公園リニューアルオープン
- 市制施行80周年記念事業・きさらづ未来会議
- 学校跡地活用（木更津スポーツヴィレッジ、ETOWA KISARAZU）
- 木更津トライアスロン大会・ちばアクアラインマラソン復活
- 市内全域一斉防災訓練、新火葬場供用開始
- きさらづ特認校バス運行開始

実績として積み上がったこと

- コロナ禍を経て、スポーツ・文化・交流イベントを安全に再始動
- 防災訓練を「行政主導」から「地域主体」へ転換
- 学校跡地を、教育・スポーツ・交流の拠点として再生



中郷中学校の跡地 スポーツヴィレッジ



富岡小学校跡地 ETOWA KISARAZU



特認校スクールバス

2023年

(令和5年)

木更津らしさを、条例・制度・都市機能として「見える化」

主な出来事

- 千葉県初の「オーガニックビレッジ宣言」
- 「木更津市彩り豊かな個性が集う共生社会づくり条例」施行
- パートナーシップ・ファミリーシップ制度開始
- SDGs未来都市認定
- 駅の図書室FLAT開設
- 江川総合運動場の再整備
- ETC時間帯別料金社会実験

実績として積み上がったこと

- 多様性・環境・循環を「理念」から「制度」へ
- 公共空間・スポーツ施設・図書室を通じた日常の質向上
- アクアラインの渋滞対策として、国・県と連携した社会実験を実施



SDGs未来都市認定



江川総合運動場



駅の図書室 FLAT

2024年

(令和6年)

支援・情報・公共施設を「使われる仕組み」へ進化

主な出来事

- 能登半島地震への復興支援
- 市公式ホームページ・LINE刷新
- 第3期オーガニックなまちづくりアクションプラン始動
- こども家庭センター設置
- 市役所朝日新庁舎建設着工
- ちばアクアラインマラソン開催(1万7,000人参加)
- 巖根駅エレベーター・Suica改札整備

実績として積み上がったこと

- 情報が届く市役所への転換（LINE登録2.5万人超）
- 子育て・相談支援の「切れ目」を解消
- ユニバーサルデザインとZEBを軸に公共施設を更新



巖根駅エレベーターと東口改札口



アクアラインマラソン 2024

2025年

(令和7年)

これまでの取り組みが「評価」「数字」「外からの信頼」として結実

主な出来事

- 木更津市史 自然編 資料 刊行
- 夜間急病診療所の市運営開始
- 大型民間投資の進展（アウトレット第4期など）
- 朝日新庁舎完成、駅前新庁舎整備が本格化
- オスプレイ暫定配備終了
- 港まつり来場者数 過去最多36万3千人
- 市税収入 過去最高224億円
- Organic Industry Forum in KISARAZU 開催
- 木更津市国際交流教育ネットワークの創設

実績として積み上がったこと

- 医療・防災・財政の市としての自立性が向上
- 地域経済・観光・国際交流が同時に動く段階へ
- オーガニックを産業・国際交流・教育へと拡張



駅前庁舎の完成予想図



朝日新庁舎



オスプレイ 暫定配備終了



Organic Industry Forum in KISARAZU

4年間を通じて築いた“3つの実績軸”

①暮らしを守る力

- 医療・防災・子育て・福祉の基盤を再設計
- 危機でも機能する体制を確立

②地域で回る力

- アクアコインダウンロード数45,000件
- オーガニック農業・循環経済の定着

③未来につなぐ力

- 財政健全化とDXによる投資余力
- 新庁舎・文化芸術拠点・公共空間の更新準備

総括

木更津はこの4年間、出来事を一過性で終わらせず、制度にし、仕組みにし、次の成長につなげてきました。いま、その積み重ねの上に、「次の木更津」へ踏み出す準備が整っています。

「次の木更津へ。」

— 安心・活力・未来がめぐるまちへ —

木更津は、この4年間、大きな変化の時代を歩んできました。感染症の拡大、社会構造の変化、物価高騰や気候変動、人口構成の転換。「これまで通り」が通用しなくなる中で、常に問い続けてきました。

—— いま、行政に本当に求められている役割とは何か。

—— 10年後、子どもたちはこのまちをどう振り返るのか。

その答えとして、行政が大切にしてきたのは、**一つひとつをつなぎ、循環させること**でした。これからの木更津に必要なのは、新しいことを並べるのではなく、**これまで積み重ねてきた実績を、「まち全体をめぐる力」へと高め、ていくこと**だと考えます。そこで、次の10年に向けた木更津のメインビジョンとして、次の三つの柱を掲げます。

01 ウェルビーイングを高める 「安心がめぐる、つながりの地域社会」

安心とは、制度やサービスが個別に整っていることだけでなく、人と人、支援と支援が**有機的につながり合い、日常の中で支え合いが生まれる状態**です。行政は、医療・福祉・子育て・防災を縦割りで捉えるのではなく、生活圏単位で結び直す**オーガニックなまちづくり**を進め、心身の健康、社会参加、環境との調和を含めた**ウェルビーイングの向上**をまちづくりの中心に据えます。高齢者、子育て世代、若者、障がいのある方、外国人住民など、誰もが役割を持ち、地域の中で支え合うことで、安心が、行政の制度だけに頼ることなく、**まち全体をめぐる力として持続していく社会**をめざします。

👉 **オーガニックなつながり × ウェルビーイング = 安心が持続するまち**

02 地域循環共生圏を基盤にした 「活力がめぐる、循環する地域経済」

活力は、外から一時的に与えられるものではなく、地域の中で価値が生まれ、使われ、再び地域に戻ることで育ちます。行政は、農林水産業・商業・観光・環境の取り組みを**オーガニックにつなぎ直し**、自然と共生しながら経済活動が続く**きざら地域循環共生圏**の形成を進めます。有機農業や里海の保全、資源循環、地元企業や市民の挑戦を結び、人・仕事・お金・資源が地域内で回る構造をつくることで、短期的な成長ではなく、**挑戦が世代を超えて続く、持続可能な地域経済**を育てます。

👉 **きざら地域循環共生圏 × オーガニックな産業・挑戦 = 活力が循環し続けるまち**

03 次世代のウェルビーイングにつながる 「未来がめぐる、持続するまちの基盤」

未来への責任とは、次の世代が安心して暮らし、挑戦できる土台を残すことです。学び、文化、交通、公共施設、環境への投資を、その場限りの整備で終わらず、**オーガニックに積み重ねていく都市の基盤**として捉え直します。再生可能エネルギーやZEB、自然と調和したインフラ整備、学びと地域活動が循環する拠点づくりを通じて、環境への配慮と利便性、現在世代と将来世代の**ウェルビーイングを両立**させます。いまの選択が、10年後、20年後の木更津の可能性を広げるよう、**持続性を重視したまちの基盤づくり**を進めます。

👉 **オーガニックな基盤形成 × ウェルビーイング × 環境投資 = 未来へ価値がめぐるまち**

木更津市のまちづくりは、オーガニックな発想で人と人、人と自然をつなぎ、
地域循環共生圏として経済と環境を調和させ、
その成果をウェルビーイングの向上として市民一人ひとりに還元していくことです。

第1章 ウェルビーイング100構想 — 支え合い、健やかに生きるまちへ —

人生100年時代、「健康・安心・生きがい」を柱に、すべての世代が支え合い、学び合い、助け合うまちをめざします。

これまでの高齢者の医療・介護予防の一体的実施、がん検診受診率向上対策、チャレスポなどのスポーツイベントの実績を土台に、さらに一歩進めた「ウェルビーイング100構想」を展開します。

1-1 子どもと子育て世代を支える

◆子どもセンターの設置

子育て・学び・遊び・相談を一体化した「子どもセンター」を整備します。

保健師・栄養士・臨床心理士・保育士・スクールカウンセラー・地域のボランティアがチームとなり、妊娠前から高校生世代まで切れ目のない支援を行います。



◆朝・放課後・長期休暇の子どもの居場所づくり

放課後児童クラブや放課後子ども教室、地域の居場所と連携しながら、朝と放課後、長期休暇期間の柔軟な預かりを整備し、共働き・ひとり親家庭の安心を支え、「働く親」と「子ども」の両方を支えます。

◆保育待機児ゼロをめざす

保育士の確保を支援し、保育園の受け入れ数を拡大します。

民間と公設保育園の受け入れに対する役割を整理し、公設保育園においては、困難性のある子供の預かり体制を強化します。

◆身近で遊べる公園の拡充・再整備

身近な公園の遊具更新や熱中症を防ぐ日陰等の整備を進め、子どもが安心して遊び、保護者や高齢者が見守れる公園環境を整えます。

1-2 アクティブシニアが主役になる「生涯現役プロジェクト」

◆高齢者ミニジョブ制度

これまでのフレイル予防講座・通いの場に加え、木更津市シルバー人材センターを中心に、短時間・軽作業で地域を支える「高齢者ミニジョブ」を創設します。

学童クラブ・保育園・子どもセンターでの読み聞かせ、買い物弱者の付き添い支援、農業の軽作業サポートなど年齢や体力に合わせたミニジョブを用意し、「まだ働きたい」「社会の役に立ちたい」という想いに応えます。

◆地域講師制度の拡充

これまでの高齢者学級や市民講座の経験を活かし、アクティブシニアの方が持つ技術や知恵（農業・料理・工芸・歴史・音楽など）を子ども・若者・市民へ伝える「地域講師制度」を制度化します。

1-3 健康チャレンジとスローモビリティ

◆健康チャレンジ制度の拡充

現在取り組んでいる健康づくりを、歩数・運動・検診受診・チャレスポ参加などを「健康ポイント」として可視化し、アクアコインと連動したインセンティブを検討するなど、「楽しむ健康文化」を育てます。

◆スローモビリティ導入

タクシーなど従来の公共交通サービスだけでは届きにくいエリアに、小型EV・電動カートなどのスローモビリティを導入し、高齢者・子育て世帯の外出を支えます。

1-4 地域コミュニティを守る

◆自治会の加入促進・デジタル化・負担軽減

会計・回覧板をオンライン化し、デジタル回覧への移行を徐々に進めます。

若者や共働き世代も参加しやすい仕組みを整え、「参加しやすいコミュニティ」へアップデートします。

自治会への加入率向上のための取組を支援するとともに、地域の安全のために防犯カメラの導入を支援します。

◆防災と共助

再エネ施設の自立型避難所への設置により、「停電しない避難所」を整備するとともに、全地区一斉防災訓練を毎年実施し、災害時も地域で支えあう体制を確立します。

福祉避難所との連携を強化するとともに、避難行動要支援者の名簿の作成と支援体制を強化します。



第2章 循環型社会と環境・農水産業の再生

— 里山と里海を守り、自然と経済をめぐらせる —

これまで、有機給食米プロジェクト、有機JAS認証支援、剪定枝・下水汚泥の堆肥化検討、盤洲干潟の保全・里海の活用など、「環境と産業」を結ぶ土台づくりを進めてきました。

これからの10年は、「オーガニック×循環×経済」を本格的に結びつけるフェーズです。

2-1 農業の再生とオーガニックの拡大

◆農業支援センターの開設

耕作放棄地の解消を進めるとともに、稼げる農業に向けた体制を強化します。

すでに進めている担い手育成や研修、販路支援をさらに強化し、新規就農者・週末ファーマー・企業の農業参入も支援します。

◆土地改良事業の推進

土地改良事業を推進し、農業の省力化・生産性向上を図るとともに、災害に強い農業基盤づくりと次世代の担い手確保につなげます。

◆オーガニック給食米 100%化と給食オーガニック化の推進

令和6年度時点で約6割まで来た有機給食米を、令和9年度には通年100%提供へ加速します。

米だけでなく、野菜・大豆・小麦などの有機化を拡大し、「給食が地域の有機農業を支える」形を完成させます。

◆週末ファーマー制度

市民や都市部の人々が、週末に木更津の畑で土に触れ、作物を育てる「週末ファーマー制度」を創設等、「農業に関わる人」を増やし、農地と暮らしを次世代につなぐ仕組みをつくりまします。

2-2 水産業と里海再生

◆盤洲干潟の保全と資源回復

アサリ・ノリをはじめとした漁業資源の回復をめざすとともに、干潟保全・環境学習・ツーリズムを連動させた取組を進めます。



盤洲干潟クリーン作戦

◆ブルーカーボンの見える化とカーボンクレジット化

干潟・アマモ場のCO₂吸収量を見える化し、カーボンクレジットとしての価値を高め、環境保全と地域の収益化を両立させるモデルをつくりまします。

2-3 ごみゼロ・資源循環・アップサイクル・地産地消エネルギー

◆有機廃棄物の資源化

給食残渣、生ごみ、剪定枝、下水汚泥などを、堆肥・バイオガス・燃料などへと再資源化する仕組みを構築します。

家庭用コンポスト購入補助を拡大するなど、地域全体で生ごみの排出量削減をめざします。

◆再生可能エネルギーと地産地消エネルギーの整備

公共施設や地域拠点への太陽光発電・蓄電池等の再エネ設備を計画的に整備し、「地域でつくり、地域で使うエネルギー」でまちを動かす仕組みを構築します。

災害時にも機能するエネルギーの自立性を高めます。

◆リユース・アップサイクル

リユース事業の拡大により、廃棄物を資源に変える地域循環を進めます。

荒廃竹林を整備し、竹炭や竹堆肥、竹雑貨などへの竹のアップサイクル・コンポスト活用など、「竹害ゼロ×竹価値最大化プロジェクト」を展開し、「竹問題」を木更津の強みに変えます。



「KISARAZU ORGANIC CITY FESTIVAL」竹ご飯作り

◆イベントのゼロカーボン化

各種イベントやフェスティバルでのEV車活用やカーボンオフセットを進め、「楽しみながらゼロカーボン」を体験できる場を多く設定します。

2-4 自然資源の観光活用

◆オーガニックツーリズムの展開

ミライマナビ旅を充実するとともに、農漁業体験・食文化・自然保全をテーマに、滞在型観光を拡充します。

あわせて、里山・里海・市街地を結ぶサイクリングやハイキングルートを整備し、歩いて・走って・巡る木更津の魅力を高めます。

加工や飲食などにより、身近な課題であるジビエ利用の産業化をめざします。

第3章 経済とにぎわいの創出 — 働く・訪れる・暮らすが変わるまちへ —

アクアラインを活かしたショッピングや観光、アウトレットや大型商業施設の集積により、木更津は大きな人の流れを得てきました。

これからの10年は、「通過点」から「滞在・創造のまち」へと進化させ、地元の人々が働きやすく、若者が挑戦でき、観光客がもう一度訪れたくなるまちへとシフトしていきます。

3-1 みなとまちと駅前の再生

◆パークベイ・プロジェクト（駅～港の都市再生）の推進



鳥居崎海浜公園食の拠点

吾妻公園文化芸術施設、駅前新庁舎、富士見通り、港を回遊導線をつなぎ、カフェ、アート、マルシェ、防災拠点を融合したにぎわいエリアを形成します。

- ・歩いて楽しい富士見通り
 - ・港で開かれるマルシェや音楽イベント
 - ・沿道の小規模リノベを支援
 - ・夜も安心して歩ける照明と、落ち着いて滞在できるベンチと癒しの植栽
- 「海とまちなか」が一体となったパークベイ・プロジェクトとして位置づけます。



KISARAZU パークベイフェスティバル

3-2 中小企業・創業・雇用の支援

◆中小企業支援・開業支援の強化

木更津市ビジネスサポートセンター「らぶ-Biz」の相談機能やIT支援機能をさらに充実させ、ホームページ・SNS・動画活用など、デジタルマーケティングを後押しするとともに、開業の支援を強化します。

◆若者・女性の活躍支援

空き店舗・空き家のリノベーションを進め、クラ

フトショップ、カフェ、シェアオフィスなど、若者や女性が小さく始められるチャレンジの場を整えます。

◆空き家再生

空き家再利用をめざし、住居・店舗・オフィス・アトリエなど、多様な活用を進めます。

◆企業誘致と雇用創出

再エネ、医療、AI、物流などの次世代産業を誘致し、地域の人材と結びつけます。

3-3 駅前市民交流プラザ

◆市民交流プラザ ～ 学び×交流×創造のハブ

駅前新庁舎2階に整備する市民交流プラザを、若者や市民活動団体の居場所として位置づけます。

- ・若者の居場所（自習スペース・プロジェクトスペース）
- ・市民活動・NPOの打ち合わせ・イベントスペース
- ・地域企業と学生や市民が会うマッチングの場
- ・小さなマルシェやギャラリーとして使えるフリースペース

吾妻公園文化芸術施設と連携し、「まちなかの市民大学キャンパス」としても機能させます。

3-4 都市の骨格を支える計画道路と港湾整備の推進

◆計画道路の段階的整備

都市の骨格となる計画道路について、渋滞の緩和、物流効率の向上、防災・代替ルート確保の観点から、優先順位を明確にした段階的整備を推進します。

◆港湾機能の強化とにぎわいを生む港湾整備への働きかけ

木更津港について、物流・防災・観光・交流の拠点としての役割を高めるため、港湾施設の機能強化や再編に向けた整備を国・県へ積極的に働きかけます。

防災拠点・緊急輸送拠点としての港湾機能や、クルーズ・海上交通など新たな可能性を視野に入れ、「物流だけでなく、人が集い、まちとつながる港」としての再構築を進めます。



第4章 教育と学びの循環

— 学びがまちを育て、人生を豊かにする —

これまで、探究学習や地域学習の推進、高齢者学級や市民講座、そして吾妻地区での文化芸術拠点構想など、「学びの土台」を築いてきました。

これからの10年でめざすのは、「木更津全体をキャンパスにする」学びの循環モデルです。

4-1 吾妻公園文化芸術施設 ～ 木更津型複合拠点モデル

◆ 学びと交流の拠点整備

文化・芸術・学び・地域交流を一体的に担う複合拠点として、吾妻地区に整備します。

- ・ホール機能：中規模ホールによる演劇・音楽・講演
- ・学び機能：市民大学、リスクリング講座、子ども向けワークショップ
- ・交流機能：地域団体・アート団体・学生の活動拠点
- ・図書・生涯学習機能：司書・生涯学習指導員による支援

◆ 運営スキーム

運営のための財団法人を設置し、「学び」と「地域協働」を両立する運営体制を構築します。

4-2 市民大学と地域講師制度

◆ 市民大学の展開

地元学・環境・オーガニック・ビジネス・アート・ウェルビーイングなど、木更津らしいテーマを中心に、市民誰もが学べる「市民大学」を展開します。

◆ 地域講師制度の充実

市民・専門家・アクティブシニア・企業人など、多様な人材が講師となり、教える側・学ぶ側が入れ替わる「共学のまち」をつくります。

4-3 学校教育のアップデート

◆ 人生100年時代を生き抜く、考える力と主体性の育成

知識の詰め込みから脱却した、一人ひとりの可能性を伸ばす個別最適な学びと探究学習を推進します。

高校・大学・高専・企業と連携した出前授業の開催や、子どもたちが挑戦し、発信し、認められる「晴れの舞台」を創出します。



木更津市合同生徒会 with 木更津市議会
～輝く木更津市へ 輝く未来へ～

◆ 教育環境の充実

ALT 等による教育現場の支援体制や特認校バスの運行を維持するとともに、トイレの洋式化、空調

整備を進め、子どもたちが集中して学べる環境を整えます。

◆部活動地域展開とスポーツ・文化の地域クラブ化
地域クラブと連携し、教師の負担軽減と子どもたちの多様な活動機会を両立させます。

4-4 学びと交流の二拠点連携

◆吾妻公園文化芸術施設 × 駅前市民交流プラザ
吾妻公園の文化芸術施設を「文化・芸術・深い学びの拠点」、駅前の市民交流プラザを「日常の学びと交流のハブ」として位置づけ、

・探究学習の成果発表

・学生や社会人のプロジェクト発表

・市民大学のサテライト講座

・起業・NPO のプレゼンテーション

などを、二拠点で循環させていきます。



吾妻公園文化芸術施設完成予想図

第5章 官民共創と市民参加

— 共に考え、共に動く行政へ —

これまで、まちづくり協議会や地区担当職員制度、DXやオープンデータの推進など、市民とともに進める土台づくりを進めてきました。

さらに一歩踏み込み、「市民が政策づくりの当事者になる」ステージへ向かいます。

5-1 まちづくり協議会と地域提案型予算

◆ まちづくり協議会の全地区展開

各地区のまちづくり協議会に「地域提案型予算」を導入し、住民自ら課題を見つけ、解決策を実践していける仕組みをつくります。

5-2 官民共創会議と若者・多文化の声

◆ 官民共創会議の常設化

行政・企業・大学・NPO・市民が同じテーブルにつき、オーガニック、環境、子育て、交通などテーマごとに共創会議を設けます。

◆ 若者議会の設置

中学生・高校生・大学生・若手社会人等の声を市政に反映する場を設け、「政策の受け手」から「つくり手」へと役割を広げます。

5-3 行政DXと組織改革

◆ 行政DX(オンライン申請・窓口改革)の推進

すでに導入したLoGoフォームや公共施設予約

システムをさらに進化させ、ライフイベントに関わる手続きをオンライン・ワンストップで行えるようにします。

◆ 職員の意識改革・社会人経験者や女性登用の推進

これまで積み上げてきた研修や事務事業の見直し

を土台に、民間企業での就労経験などの多様な背景を持つ職員が能力を発揮できる組織へとアップデートしていきます。

女性職員の管理職への登用をさらに進めていきます。

特出し 01 木更津空港構想 — 陸・海・空が交わる、首都圏のゲートシティへ — ～木更津空港をハブに、技術と人が循環し、未来へつながるまち・木更津～

木更津は、東京湾の中央に位置し、羽田・成田・東京・横浜・川崎といった首都圏中枢都市に最もバランスよくアクセスできるポジションにあります。

この地理的優位性と、陸上自衛隊木更津駐屯地の滑走路機能を最大限にいかし、「陸・海・空」が結び合う新しいゲートシティをめざします。

構想の柱

1. プライベート航空・次世代航空モビリティの拠点化

- ・自衛隊滑走路の民間活用を視野にプライベートジェット受け入れ
- ・隣接地への国内外の企業オーナー等を対象とした格納庫の整備
- ・近隣地におけるeVTOL(空飛ぶクルマ)やドローンの実証・運航拠点化

・プライベートジェットのクルー・パイロットのレジデンス整備と周辺経済活性化

2. アクアライン・海上交通・空路を一体化したネットワークの構築

・アクアライン6車線化の早期実現に向けた国・県への働きかけと、LRT等の大量輸送システムの導入・研究

・羽田・東京・横浜と結ぶ海上ルートの再生

3. 防災・産業が調和した新しい空港モデル

- ・大規模災害時の後方支援・医療・物資輸送拠点としての機能
- ・航空関連産業の誘致・整備拠点の形成
- ・自衛隊OBの技術継承と若手人材の育成の場
- ・基盤整備と一部運用、首都圏第3の空の入口へとフェーズを設け、国・県・企業・大学との連携のもとに進めていきます。

特出し 02 里山リトリート・ビレッジ構想 — オーガニック里山ステイからはじまる、再生のまちづくり —

木更津の里山地域は、森と丘陵、田園が調和する自然豊かなエリアです。

この地には民間により、農・食・アート・エネルギーの循環を実践する拠点が整備され、木更津市のオーガニックなまちづくりの象徴的な存在となっています。

この地域にて、農泊をベースに、心を癒すリトリートな滞在型・体験型のまちづくりを進め、将来的には、田園エリアなどへ“にじみ出すように”展開し、木更津全体を「再生と循環のフィールド」へと育てていきます。

構想の柱

オーガニック × リトリート × 循環 × 拡張

1. オーガニック里山ステイ事業

- ・空き家・古民家を改修した一棟貸し・農泊拠点の整備

- ・自然素材を活かした温かみのある滞在空間
- ・地元の食材や郷土料理、ジビエを活用した食事の提供

2. リトリート・プログラム事業

- ・農業体験、森の散策、星空観察、ヨガ・瞑想など、心と体を整える滞在型プログラム
- ・企業研修、教育旅行、ウェルビーイングツーリズムとして展開

3. 地域ガイド育成とホストネットワーク

- ・農家・住民・若者・移住者を対象に、民泊運営・接遇・安全・英語対応などの研修を実施
- ・ガイド役のホストネットワークを育成

4. 地域循環と基金制度

- ・宿泊費・体験料の一部を、環境保全・教育活動・子どもの自然体験へ再投資
- ・農家・職人・企業との連携による経済循環

木更津市は、自然と人、経済と環境、学びと幸福がめぐるまちです。

- ・高齢者のミニジョブで、人生100年時代の生きがいを。
 - ・週末ファーマーで、農と都市の新しい関係を。
 - ・アップサイクルで、環境課題を価値に変える創造力を。
 - ・駅前市民交流プラザと吾妻文化芸術施設で、学びと交流が巡る文化を。
 - ・木更津空港とリトリート・ビレッジで、外と内を結ぶ木更津の未来像を。
- それが、私が市民の皆さんとともに描き、かたちにしていける「次の木更津」の未来です。



推 薦 の 言 葉



2014年3月の木更津市長就任以来、3期12年。

渡辺市長が進めてきた「オーガニックなまちづくり」はひとつずつ確かなかたちとなり、安心安全で豊かな暮らし、官民連携による地域の強靱化と安定化、持続可能な自治体基盤づくりなど、次代へつなぐための成熟を続けています。

自然環境だけでなく健康や心の豊かさを求め、人と自然が調和した持続可能なまちづくりを目指していく姿勢こそが、渡辺市政の原点であると考えています。

木更津市の更なる発展、輝かしい未来のため、その確かな実績と経験に基づき、渡辺市長にはその手腕を存分に発揮していただかなければなりません。

何卒、渡辺芳邦に更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

衆議院議員 浜田 靖一



木更津市の更なる発展に向けて、私は渡辺よしくに市長を全力で応援します。

渡辺市長の最大の強みは、時代を先読みする「先見の明」であると思っています。就任当時から掲げた「オーガニックなまちづくり」は今や世界の潮流であるSDGsの先駆けと言える取り組みでした。その情熱が現在の木更津のブランド力を築いています。

そして何よりも渡辺市長の前例のない挑戦を恐れない姿勢こそ、木更津市を次なる高みへと導く原動力であります。

私も渡辺市長と共に木更津の新しい未来を切り開いていく覚悟です。木更津の進化を止めてはなりません。

渡辺よしくに市長への絶大なご支援を心よりお願い申し上げます。

千葉県議会議員 もりがく



プロフィール

- 1964年 木更津市長須賀生まれ
- 1980年 木更津市立木更津第三中学校卒業
- 1983年 千葉県立木更津高等学校卒業
- 1987年 日本大学理工学部建築学科卒業
- 1993年 木更津商工会議所青年部第37代部長
- 1998年 (一社)かずさ青年会議所第33代理事長
- 2000年 (公社)日本青年会議所関東地区千葉ブロック協議会会長就任
- 2005年 千葉県議会議員当選/計3回連続当選
自由民主党県青年部長歴任
- 2014年 木更津市長就任(現在3期)

趣味

ゴルフ、トライアスロン、旅行

第1条 (名称・所在地) 本会は、渡辺よしくに後援会と称し、主たる事務所を木更津市に置く。

第2条 (目的) 本会は渡辺よしくにの政治活動を支持し会員相互の融和をはかり、政治、教育、文化等に関する調査研究を行うと共に、支援団体相互の連絡協議につとめ、併せて、市民の政治意識の高揚と政治の近代化を促進し、郷土の進展に寄与することを目的とする。

第3条 (事業) 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 後援会座談会等の開催
2. 関係諸団体との連携
3. 刊行物の発行
4. その他本会の目的達成のため必要な事業

第4条 (会員) 本会は、第2条の目的に賛同し、入会申込書を提出した者をもって会員とする。

第8条 (経費) 本会の経費は、寄付金・その他の収入を持って充てる。

附則本規約は平成17年4月28日より施行する。

